第４分科会

社会的な話題に対する考えや気持ち、その理由を豊かに書き表すことができる生徒の育成
～異なる意見の対比に着目した書くことの指導の工夫を通して～

茨城県那珂市立第二中学校　　教諭　吉原　永
茨城県水戸教育事務所　　指導主事　長南　隆

１　主題設定の理由

中学校学習指導要領解説　外国語編では、「書くこと」について、「関心のある事柄」「日常的な話題」「社会的な話題」と３つの内容を提示している。その中でも、社会的話題に関する書く活動は生徒たちが抵抗感をもつ課題の一つであり、本校の生徒も苦手に感じている。

また、本校生徒の実態として、英作文の表現の幅が限られていたり、客観的な事実を根拠として取り上げながら自分の意見を書くことができなかったりと、言語面、内容面ともに課題が多く見られる。

そこで、今回、社会的な話題に関する書くことの指導において、表現活動の反復と異なる意見の対比に焦点を当て、生徒の書く力の向上に向けた研究と実践を行うこととした。

自分の考えを整理する際、異なる意見と対比をさせることで、自分の意見やその根拠が妥当なものかどうかを多角的に吟味することができ、さらに、比較・検討を繰り返しながら自分の意見を整理することで、自分の考えや気持ち、その理由を豊かに書き表すことができる生徒の育成につながると考えた。

２　研究の概要

生徒の「書くこと」の言語面・内容面に関連する技能について、次のような実態であることが明らかとなった。

【実態１】短文を羅列させることはできるが、テーマに対する表現の幅が限られている生徒が多い。

【実態２】自由英作文において、コミュニケーションに支障をきたす誤りが多く見られる（正確性が低い）。また、客観的な事実を根拠として取り上げながら、自分の意見を書くことができる生徒が少ない。

【実態１】（令和５年２月２１日実施）

２つの案の対比を通して、理由を明らかにしながら、自分の意見を書くことができるか問う問題（52 名）

・使用されていた表現（重複あり）

助動詞 can	23 名	接続詞 when	２名
接続詞 if	７名	will	１名
比較	６名	should	１名
have to	３名	動名詞	１名

・25 語以上で書くという条件を満たさない生徒 18 名

・25 語以上は書いているが、コミュニケーションに支障をきたす誤りがある生徒８名

【実態２】

令和５年度全国学力・学習状況調査結果（本校）

・社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる問題（正答率 27.5%）

（誤答例）

①条件は満たしているもののコミュニケーションに支障をきたす誤りがある（19.6%）

②書き手の意見に対する自分の考えのみ書いている（27.5%）

③書き手の意見に触れずに、与えられた話題について自分の考えのみ書いている（9.8%）

④無解答（13.7%）

【実態１】を踏まえ、自分の意見を述べるための素地として表現方法の充実を目指し、（１）の実践を行う。

また、【実態２】を踏まえ、まとまりのある英文を書くための構成の工夫と内容面の充実を目指し、（２）の実践を行う。

（１）　帯活動としてのスモールライティング

この活動は、スモールトーク実施後に行う。やり取りした内容を書き出すことを通して、文法的な間違いへの気付きを促したり、生徒同士で表現を共有し、新たな語彙や表現を増やしたりすることを目的とし、ペアもしくはグループで

実施する。パターン練習とならないように、生徒には目的・場面・状況を提示し、扱うトピックは日常的な内容から社会的な内容につながっていくようにする。単元を通して、難易度を上げながらも類似したテーマを提示することで、前時までの学習を想起したり、Good Model を参考にしてより豊かな表現に親しんだりできるようにしていく。

【テーマ例】

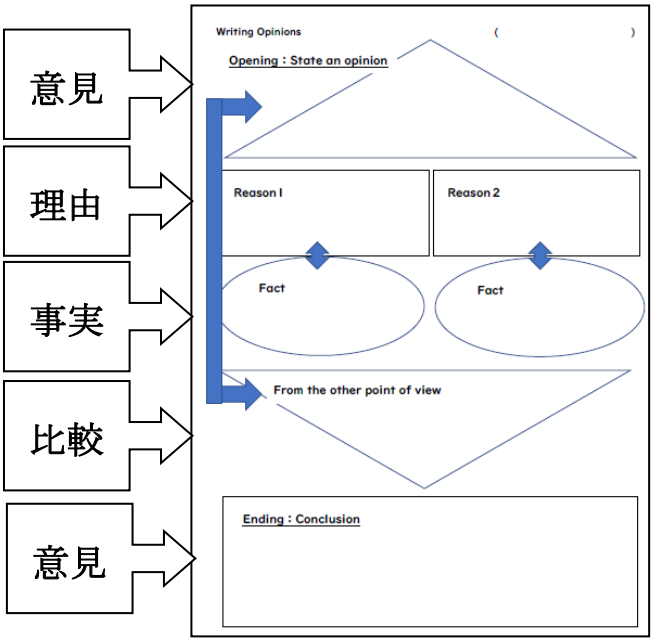
① 季節の食べ物
② 朝食に適した食べ物
③ 子どもの欠食問題と私のアイデア

① もらってうれしかった言葉やメッセージ
② オンライン学習のメリット・デメリット
③ バーチャル空間の世界で、アバターは自分に似せる？それとも似せない？

【学習の流れ（例）】

① 教師と ALT のやり取りを聞いてテーマを理解する。（２分程度）
② ペア活動（１分）
③ 中間指導
④ ペア活動【再】（１分）
⑤ どんな文章が書けるか友達と確認（１分）
⑥ ライティング（３分）
※ 提出された英作文は添削後に返却し、次時の参考資料となるようにする。

（２）思考の整理を促すライティングシートの活用



（資料１）

資料１に示したシートは、自分の意見や考え、根拠となる理由を図式化し、自分の意見を構造的に捉え直すことを目的としている。その際、自分の意見とは異なる意見についても触れるようにし、自分の主張が読み手にとってより説得力があるものかどうかを吟味できるようにする。その際、主張を裏付ける理由として過去の経験や、広く一般的な事実など、具体的な事案と関連付けることで、豊かな表現へとつなげていく。

また、それぞれの枠を、意見の枠や理由の枠、事実の枠、比較の枠に分類し、記述する内容を独立させることで、どんな接続詞を用いて論理的に文章を組み立てることが効果的か、それぞれの情報を書き終えた後に検討できるようにする。

生徒同士が英文を読み合う際には、以下の４つの視点に着目することで、スペリングの間違いや文法的な間違いの指摘だけではなく、内容面についてアドバイスし合えるように促していく。

その後、生徒自身によって、英文を書き直す時間をとる。修正後は、教師や ALT による添削指導を行う。

【ライティングのポイント】

① 主張と理由、理由と事実、主張とは異なる意見の対比といった隣接する枠同士の情報につながりがあるか。
② 「はじめ」・「中」・「終わり」と全体を通して読んだときに、内容に大きなずれはないか。
③ 「はじめ」の主張を別な視点で言い直した表現や「中」の事実を踏まえた＋αの視点から「終わり」の主張（まとめ）が書かれているか。
④ それぞれの枠をつなぐ役割を果たす語句や表現が適切か。

（資料２）

【ライティングシートを活用した学習の流れ（例）】

① 社会的な話題に関するまとまりのある英文を読んだり、聞いたりする。
② 読んだり、聞いたりした内容について、ペアやグループで共有する。
（話すこと・やり取り）
③ ペアやグループで話したことを学級で共有し、話題に関する概要をつかむ。
④ それらの情報をもとに、自分の考えをペ

アで話す。

⑤ 上記①～④の内容を参考にしながら、ライティングシートを活用して、自分の意見を整理する。

⑥ 上記⑤で書いた文章を、【ライティングポイント】を参考にしながら、生徒同士で読み合い、アドバイスし合う。

⑦ 上記⑥の活動をもとに、英文を書き直す。

⑧ 教師や ALT による添削指導を受ける。

この活動を繰り返し行うことで、生徒の思考がスムーズに整理できるようにする。

３ 研究の成果と今後の課題

（１） 成果

＜手立て１＞

帯活動としてのスモールライティング

① 自分の考えや事実を伝えるための英語表現の幅が広がり、限られた時間内に書く英文の数が増えた。また、使用表現の種類が増えた。（資料３・４）

② 言語面の気付きについて友達と共有したり、教師からのフィードバックを確認したりすることで、同じ誤りを繰り返す生徒が少なくなった。（授業内の様子から）

③ テーマを日常的な話題から社会的な話題へと少しずつ変更していくことで、目的に応じて、前時で参考にできる表現と新たに活用すべき表現など、活用する英語表現を考えながら英文を書く生徒の姿が見られた。（授業内の様子から）

＜手立て２＞

思考の整理を促すライティングシートの活用

① 考えを図式化して整理することで、事実と考えの整合性が取れているか確認したり、「はじめ」・「中」・「終わり」と全体を通して、まとまりのある英文となっているかを確認したりする姿が見られた。（授業内の様子から）

② 上記①と関連して、意見を整理するために等位接続詞を用いたり、first や second など序数を用いて順序立てて意見を述べたりする生徒の数が増えた。（資料５・６）

③ 英文を書くことが苦手な生徒は、言語面には多くの課題が残るものの、ワークシートの枠にどんな情報を入れればよいか考えることができた。それに伴いワークシートを活用しないときに比べて、英語の語数が大きく増えた生徒が多かった。（資料３）

④ 英作文を書く際に、自分の経験や例えを入れるなど、より自分の意見を分かりやすく伝えるために工夫をしている生徒が見られた。（資料７）

（資料３）定期テスト英作文語数

	第２学年　２月	第３学年　９月
25 語以上	65.3	95.8 （＋30.5）
15～24 語	3.8	0 （－3.8）
１～14 語	21.1	2.1 （－19）
無解答	9.6	2.1 （－7.5）

（%）

（資料４）定期テスト英作文使用表現一覧

【第２学年　２月】

助動詞 can	23 名	接続詞 when	２名
接続詞 if	７名	will	１名
比較	６名	should	１名
have to	３名	動名詞	１名

【第３学年　９月】

助動詞 can	24 名	接続詞 when	12 名
接続詞 if	16 名	will	０名
比較	１名	should	０名
have to	０名	動名詞	０名
it is～ to～	10 名	受け身	０名
疑問詞＋to	１名	must	０名
原形不定詞	１名	不定詞	４名
make 人＋形容詞	４名		

（資料５）定期テスト等位接続詞の使用割合

	第２学年２月	第３学年９月
and, so, but など	38. 4	45. 8 （＋7. 4）

（%）

（資料６）定期テスト序数の使用割合

	第２学年２月	第３学年９月
first, second など	5.8	37.5 （＋31.7）

（%）

（資料７）定期テスト内容面

	第２学年２月	第３学年９月
例えを入れる	0	8.3 （＋8.3）
過去の自分の経験を入れる	0	29.1 （＋29.1）

（%）

（２） 課題

＜手立て１＞

帯活動としてのスモールライティング

① 友達とのやり取りの内容をそのまま書くのではなく、平叙文に直して書く必要があるため、書くことに抵抗感がある生徒にとっては難しい活動である。また、正しいスペルを書くことへの意識があるため、３分間という限られた時間内で書く英文の量が少ない生徒も多く見られた。

② 生徒が安心して他の生徒の表現を参考にしたり、正しいスペルを ICT を活用して確認したりすることを通して、間違いを恐れず、「多くの表現を活用する」ということに意識が向くように活動の仕方を工夫する必要がある。

③ 取り上げる話題が社会的になればなるほど、インプット（読んだり、聞いたりすること）を充実させて、生徒の意見を引き出せるようにする必要がある。単元でテーマとしているトピックや他教科で学んでいること、学校として取り組んでいること、その時話題となっているニュースなど、生徒が身近に感じている内容から話題の幅を広げていくことを意識している。そして、単元や学期、年間を通してどのような課題を設定していくか、教師が見通しをもつことが重要であると考える。

＜手立て２＞

思考の整理を促すライティングシートの活用

① 思考の図式化を通して、文章全体の構成を意識しながら順序立てて文章を書くことができる生徒は増えたものの、内容面の充実については、課題が見られる。「言いたいことをどう表現すればよいかわからない」という場面は多く、生徒が豊かに思いを表現するためには、より語彙を増やし、表現方法を多く理解していることが必要である。

② 言いたい日本語をそのまま英訳しようとする生徒が多く見られた。自分が伝えたいことを、既習の表現を用いたり、簡単な英語で表現したりすることを繰り返すことも今後の活動の中に取り入れていく。

③ 今回のライティングシートは、異なる意見の対比を上下で大まかに対比した。しかし、より比較検討をしやすくするために、左右で比べるという方法の方が生徒にとっては取り組みやすかったのではないかと考えた。今後も、生徒の学びをサポートするツールを工夫しながら、生徒の「書く」力の育成に取り組んでいきたい。

４ 参考文献・引用文献

・文部科学省 「中学校学習指導要領解説 外国語編」開隆堂（2018）

・国立教育政策研究所教育課程研究センター「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料【中学校 外国語】」東洋館出版社（2020）

・国立教育政策研究所教育課程研究センター「平成 31 年度全国学力・学習状況調査解説資料 中学校英語」（2019）

・茨城県教育委員会「令和５年度学校教育指導方針」（2023）

・伊東治己「アウトプット重視の英語授業」教育出版（2012）